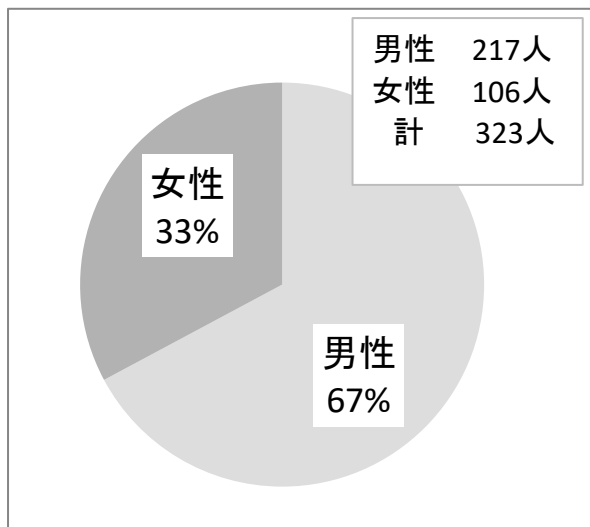
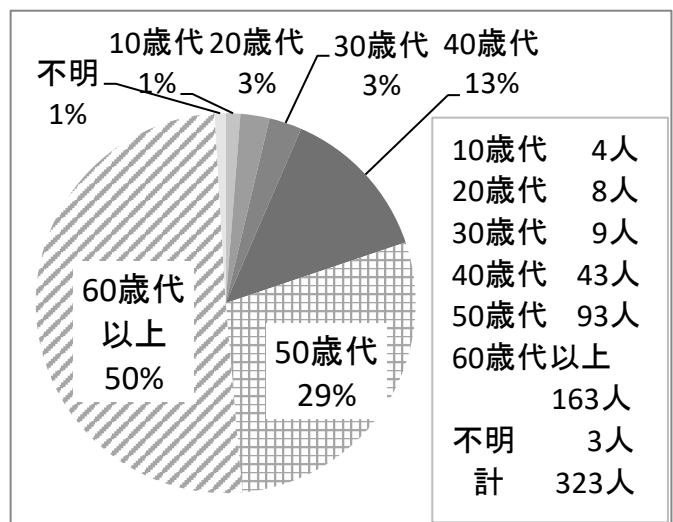


## ◎ インターネット依存症予防教育推進事業アンケート結果

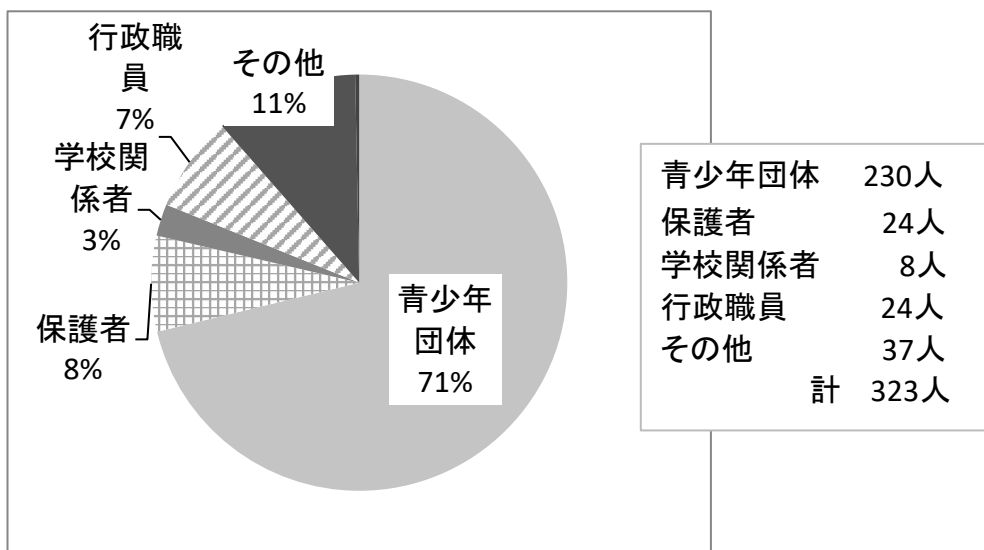
### 問1 男女の割合



### 年齢比



### 問2 所属



## ● インターネット依存症に対する理解度

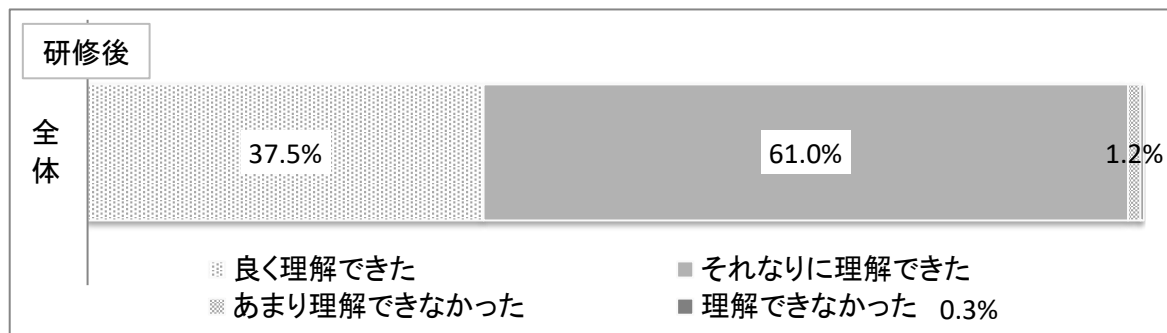
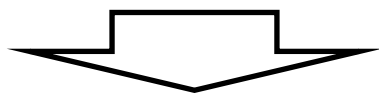
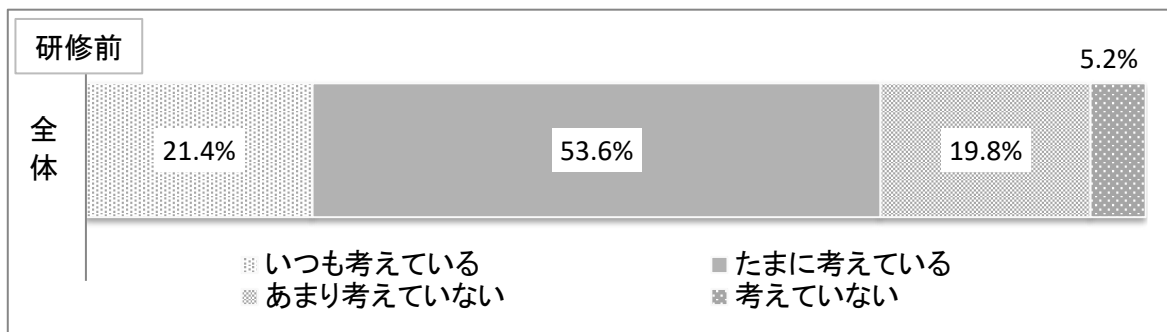
問6 これまでに、インターネット依存症について考えたことがありますか。

問7 この研修会で、インターネット依存症についての理解が深まりましたか。

問6の「研修前」の全体で最も多かった回答は、「たまに考えている」53.6%で、「いつも考えている」の21.4%と合わせた75.0%が、インターネット依存症に関心がある状況であった。

問7の「研修後」の全体で最も多かった回答は、「それなりに理解できた」で、「良く理解できた」と合わせると98.5%という結果であった。

研修により、インターネット依存症に対して、理解が深まったことがうかがえる。



● **研修内容**

問3 今回の研修会を受けて気になった内容は何ですか。(3つまで選択)

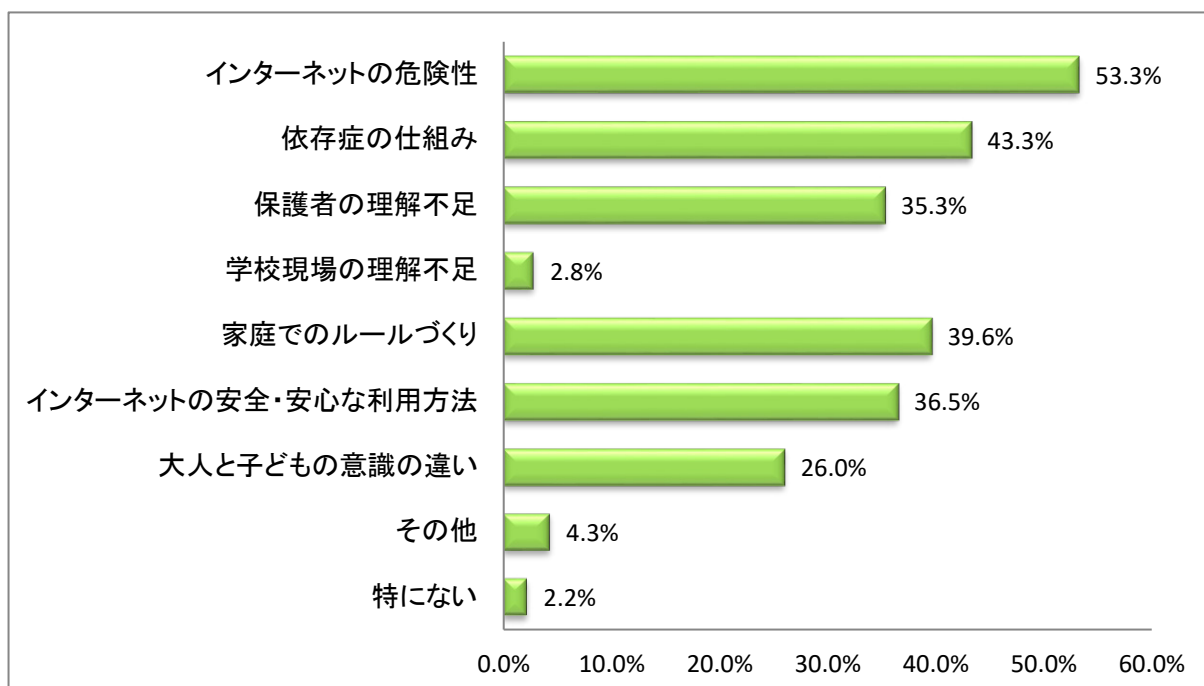
多かった回答順に、「インターネットの危険性」「依存症の仕組み」「家庭でのルールづくり」「インターネットの安全・安心な利用方法」「保護者の理解不足」などであった。

○その他（主な回答）

親子のコミュニケーションの大切さ。社会の発展が良くも悪くも子どもに大きな影響を与える恐さ。次世代を育てるため、早急に対策を立てなければならないと痛感。

子どもだけでなく大人も陥っている！

睡眠不足と長時間利用の相関、健康への影響





## ● インターネット依存症に対する実践事項

問4 今まで実践していることは何ですか。(該当するもの全て選択)

問5 今後、実践したいと思うことは何ですか。(該当するもの全て選択)

問4の「研修前」の全体で最も多かった回答は、「研修会などへの参加」で、次に多い回答は「家庭での話し合い」という結果であった。

○問4のその他(主な回答)

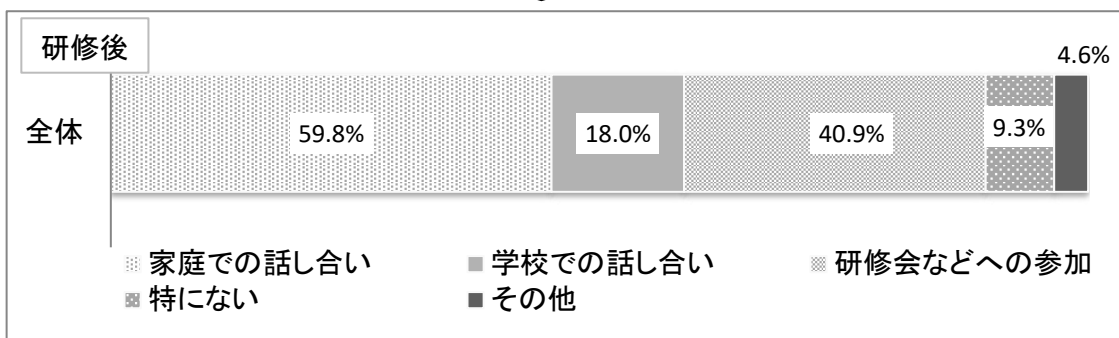
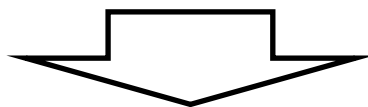
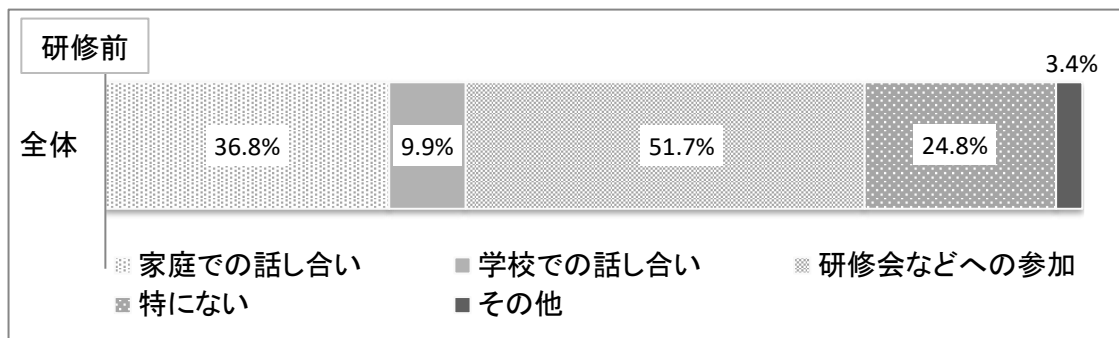
おぜのかみさまの啓発、生活習慣の見直し、子どもに持たせない  
地域での話し合い、集会等での周知  
マスコミまたは関連本から情報の習得

問5の「研修後」の全体で最も多かった回答は、「家庭での話し合い」で、次いで「研修会などへの参加」という結果であった。

研修により、特に「家庭での話し合い」の実践への意識が高まっていることがうかがえる。

○問5のその他(主な回答)

依存症の弊害を子どもに家庭・学校で話し、理解させる。  
地域や保育所・幼稚園での話し合い  
自己肯定感を高める。仲間作り、人間関係力



問8 その他、研修(教室)の感想がありましたらお書きください(主な回答)

- ・ 子育てを終えているので、次の世代に伝えたい。
- ・ 孫の子育ての支援に少しでも活用したい。
- ・ 親自身がスマホのルールを守れていないのに、子ども達が出来るわけがないな、と痛感しました。今日を機に親子で話し合い、ルールを決めて使用したいと思います。できるだけコミュニケーションをとり、インターネット、スマホ、ゲーム機を使いたいです。正しく安全に使い、使い過ぎないように向き合っていきます。

- ・ いろいろな立場の方にお話を伺うことができ、有意義な研修会でした。ありがとうございました。様々なインターネット、スマホの講習会の中で、一番良かったです。
- ・ 伊勢崎から参加させて頂きましたが、「来て良かった」と思う教室でした。より多くの方に聞いてもらい考えて、一緒に考えて行きたいと、いければと感じました。スマホ所持も増え当たり前になり、一時より家庭でのルール決めなども、うやむやになってきているように思い（感じ）ます。とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 電子メディアについて危険性は講演会等で理解出来ても、やはり大人たちがどうするか何だと分かった。ルールを作るですとか、各家庭で地道にやっけて行くしかないのだろうか。
- ・ インターネットの危険性がわかり、子ども達に大人が注意してあげることが大事だと思いました。身近に子どもはいませんが、学校などで、先生方より指導もしていただけたらと考えます。親の教育も必要だと感じました。
- ・ 非常に身につまされる講演でした。私も日頃ヒマつぶしにスマホを使うことが多くありました。使い方には気をつけたいと思います。また家庭にも会話を楽しもうと声を掛けて行こうと思いました。
- ・ 日々の相談で、ネット依存、ゲーム依存が増えています。治療、相談先が久里浜HPぐらい（全国でもここだけ？）しかありませんか。地域で何か活動が出来ないもののでしょうか？（県内で何か所かあるとうれしいのですが）
- ・ 内海先生の基調講演、「そうです、そうです」と引き込まれて拝聴しました。「社会が変われば、家庭が変わる」の言葉、即ち、大人のあり方がそのまま家庭に表れ、子どもの姿に表れるのか、と思います。
- ・ 学校でもSNSについての講義を受けたりしましたが、子育てなど関連したお話をきく事が出来、大変興味深かったです。ありがとうございました。
- ・ 便利になった反面、生きにくい世の中になったと思いました。
- ・ 保護者・大人向けの教室を多く開催してほしい。
- ・ インターネット依存は大人でも対応は難しいので、今後もこのテーマで研修してほしい。
- ・ パネルディスカッションの時間を、もう少し長くとっても良いのではない
- ・ 大人も子どもの成長に伴い、一緒にインターネットに対する意識や理解を深め対応することが必要。特に、健康面、精神面の健全性を保つことが重要。
- ・ 子どもだけではなく、親の理解・勉強が必要だと感じた。
- ・ 内海先生の言葉に説得力を感じて、参考になった。
- ・ 内海先生の講演で、乳児への接し方に関心を持った。
- ・ 子育て世代に受けて欲しい研修内容。
- ・ ながらスマホが、子どもにいかにか悪影響があるかわかった。
- ・ 子ども達に寄り添って、話を聞いてあげることも大切とわかりました。
- ・ 目の負担が考えた以上に深刻とわかった。
- ・ スマホの危険性を再認識した。人と人との関わりが、子どもの育成に大切であると医学的にも説明され理解できた。学校や地域の関わりが社会能力を育成することを改めて学んだ。



- ・ 子どもの立場や環境に大人が興味を持ち、市や県がもっと動くべきだと思
- ・ 急激に普及しているインターネットの問題について、子どもと保護者の認識に大きな違いがあることを学ぶことができた。
- ・ インターネット問題の中でも、ひとつのテーマに絞った内容が良かったと思う。
- ・ これからの孫育てに役立てたいと思います。
- ・ 私自身、インターネット依存症についての勉強が必要だと思った。
- ・ データが新しく、改めて勉強になった。改善策についても提示され、今後、家庭との協力を得ながら、進めていこうと思った。
- ・ 具体的な数字を挙げて、子どもたちのスマホ、インターネットの利用状況を説明してもらったので、より理解が深まった。
- ・ インターネット、SNSなどへの依存は、子どもたちの生活や家庭における心の問題と関係しているのではないか、ということにとっても関心が持てました。インターネットが当たり前の世の中、家庭や学校での話し合い、ルールづくりが大切だと思いました。
- ・ とにかくルールを決めればよいと思っていたけれど、実行できそうなルールに絞ることが大切だと思った。
- ・ 学校関係者にもっと参加してほしい。
- ・ 健康面、依存症などインターネットの悪影響を学ぶことができた。
- ・ 前々から課題として意識されてきたテーマですが、この研修会を通して、改めて考えることができました。難しい分野ですが、直視しなければならない現実を痛感いたしました。情報システムについても、学習や研究が必要であると切に思いました。多様化を受け止める難しさも感じました。
- ・ 講師の話し方がわかりやすく、時間的にも適当だった。今回のテーマ「インターネット問題」については、つい10年前に始まったものである。我々大人が学ばなければならない。
- ・ インターネット依存症予防について、「依存症になってしまった」「依存症が改善した」などの実例をあげてほしかった。
- ・ 子連れで参加しましたが、温かく対応してくださり、とても助かりました。ありがとうございます。私も、今年に入ってから、メディアの悪影響について学習しています。メディアは親にとっては、子どもを静かにさせておく都合のよいおもちゃです。（そう思っている人がまだまだ多いと感じている）でも、実際は子どもたちの脳への発達障害や認知への問題、目への影響等、「百害あって一利なし」という事実が明らかにされてきています。子どもは本来、外遊び、体を動かすことが大好きなはずで、そういう場へ子どもを連れ出せる親（大人）が忙しすぎて、少なくなっているのを残念に思っています。私も、これから研修を重ね、より多くの子どもや保護者へ、本来あるべき子どもの姿、メディアの危険性を伝えていきたいと思っています。
- ・ 家庭で話し合いをしようとする家庭は、まだよいのですが、教育委員会からのお手紙を全く見ない、学校の保護者会へも出席しない、そういう保護者をどうすればよいのか、その子どもをどうすればよいのか、そこを考えてほしいと思う。
- ・ スマホは小型のパソコンだと思っていたので、子どもたちへは強く注意していましたが、今ではなくてはならないツールなので、どのようなことが危険で、やってはいけないのかを指導できればよいと思いました。
- ・ 1つ、2つに絞った約束事ならば、子どもも親もできそうな気にさせていただきました。ありがとうございました。



- ・ 我が家のきまり、参考になった。学校や家庭以外の居場所づくりはどのようにしたらよいのだろうか？
- ・ インターネット依存症について、使用時間が睡眠時間に関係があり、学力にも影響が出ることが理解できた。
- ・ 親の子どもへの接し方、他人の子どもを周りがどう守るかを考えることができた。
- ・ 子どもたちのインターネット利用は、今後も何かと問題がでてくる。研修会で学びたい。
- ・ ネット社会では、大人より子どもの方が進んでいる。今の子どもはネットの世界が当たり前で、使い方によっては、便利だが、危険も潜んでいる。
- ・ パネルディスカッションで、有識者の話があり、良かった。
- ・ 小中高校生別に専用のスマホを用意する。午後10時以降は完全に電源が落ちるようにする。夜の時間帯は使用できないようにする。

### 【課題と今後の展望】

青少年のインターネット適正利用推進のため、セーフネット標語「おぜのかみさま」を考案し、平成26年度から、県民運動として、普及啓発活動を継続実施している。

(啓発用リーフレット表面を資料編の最後に添付)

しかしながら、青少年や保護者、指導者等の個々の知識や意識の差が大きい。

そのような中で、本依存症予防教室は、青少年を啓発する立場にある保護者や指導者等に関心を持って頂くのに効果的だったと認められる。

今後は、中学、高校の学校関係者や保護者等を巻き込んだ取組を展開させ、県民全体の意識を更に醸成して、将来にわたってネットリテラシーの向上及びインターネット適正利用を図りたい。

**行けません**

